

「社員有志からの質問書」に対する理事各位のご回答まとめ

(2019年6月17日現在)

回答済8名（吉沼勝美理事、木村時政理事、種村一郎理事、安孫子達理事、田中透理事、綱島俊昭理事、前川公男理事、高橋哲也理事）

未回答7名

高尾義則会長、日野岳充専務理事ほか計4名の連名による、「社員提案に対する反対意見について」と題する文書（以下「本文書」といいます。）が全社員に送付されました。

1. 本文書が全社員に送付されることを、事前に承知していらっしゃいましたでしょうか。	はい 0名 いいえ 8名
2. 本文書の内容を、事前にお読みになっていらっしゃいましたでしょうか。	はい 0名 いいえ 8名
3. 2019年5月24日に開催された第44回理事会報告によれば、同理事会では、「理事会として反対の意思表示をしては等の意見があった」とのことですが、この意見に対し、どのような意見がかわされたのでしょうか。	
<p>【吉沼理事】 わからない。 体調不良で、第44回理事会欠席。</p> <p>【木村理事】 反対の意思表示をすべきであるとの強い意見がありましたが、理事会としては意見を付けないことになりました。</p> <p>【種村理事】 ある理事から「連盟として恥ずかしい。理事会として反対意見を議案に付すべき」との意見に続き、最後には「全理事の責任だから理事全員辞職すべき」など訳の分からない意見を強硬に展開されました。しかし、別の理事から、「今回の解任の件は、あくまでも個人に対する解任要求である」との明快な意見により採決することなく付帯意見を付けないことになった。</p> <p>【安孫子理事】</p>	

今回の議案は個人の理事に対してのものであり、理事会に対しての解任要求では無いため、理事会としては意思表示をしないこととなった。

【田中理事】

ある理事が、昨年の社員総会時の社員提案の件を持ち出しその時理事会において「理事会としては、社員提案に反対である」と意見書を付随して出した件を持ち出し今回も同じようにすればどうか？と提案があったが多くの理事から今回は個人の問題で理事会として意見書を出すのは筋が違うと意見が出た、もし理事全員に関わる事であれば意見書を出すのは問題ないが個人の事柄なので出す必要はないと結論がでた。また、弁明についても個人が行うのが常であると意見が出た。

この時、当事者と1名の理事を除きほぼすべての理事が納得してこの件を容認したと感じた。

【綱島理事】

尾形理事から、「このような提案は、連盟として恥ずかしい。是非、理事会として反対する意見を付して、総会に上程しよう。」という発言があったが、この提案は会長及び専務理事個人に関するものであるから、理事会としての反対意見を付すのはおかしいという意見が大勢となり、尾形理事はしきりに決を採ろうと発言したが、決を採ることなく理事の多数の「個人として対応すべき。」ということで決着した。

【高橋理事】

社員の議案提案について、会長と専務理事の解任請求とありますが、業務執行に関し解任に該当しないと考えています。定足数を満たしているので提案上程を阻却出来る訳では無い為、解任請求を受けた二人は反論文を用意し総会に臨むと思うが、会長と専務理事という執行部の中核に対する請求なので、理事会を挙げて反論すべきではないか という意見が多かった。

ただし、日頃から会長を支持しない理事からは解任提案を歓迎する意からか、特に意見が出た記憶はありません。

4. 最終的には、今回の社員提案に対する理事会としての意見は付さないことになったのでしょうか。

付さないことになった **6名**
いいえ **0名**

【吉沼理事】

わからない。理事会欠席の為。

【高橋理事】

回答例に適切な表現がありません。

明確に理事会として意見を付す、付さないの決議を行っていないと記憶しています。従って本件に関し、必要に応じて必要な人物が必要な意見や説明を用意する方針と解釈しています。

本文書 4 頁に、「JARL 広報大使の任命につきましては、理事会でご報告させていただき理事全員の賛同をいただいております。」とあります。

5. 「広報大使」なる役職を設けるか否か、その人選等については、JARL にとって重要な事項であり、理事会の事前の議論と決議が必要と思われます（法第 90 条 4 項の「重要な使用人の選任及び解任」またはそれに準ずる者に該当し、理事会の決議を経なければならないものとも思われます。）が、JARL 広報大使の任命について、理事会での「事前の」報告・提案はなされたのでしょうか。

はい **0名** いいえ **8名**

【吉沼理事】 いいえ。ただし、私の任期中にはなかったという意味。

【田中理事】 事後報告のみそれも口頭。書類もなし。

6. JARL 広報大使の任命について、「理事全員の賛同をいただいております。」とありますが、「全員」の賛同があったことは確認されているのでしょうか。

はい **1名** いいえ **7名**

【田中理事】 上記と同じ

【高橋理事】 事後の報告があり、経費に関する質問が出ましたが、執行部から無償である説明を受け、反対意見に移りませんでした。これは全員の異論の無い賛成と解釈しています。

7. また、理事会としての「決議」「承認」はなされたのでしょうか。

はい **1名** いいえ **7名**

【安孫子理事】

理事会で事後報告をされたが、決議などは取ることも無く、一部の理事からは意見があったが、もう決定事項でお金もかかっていないと一方的に終わった。

【田中理事】 上記と同じ。口頭での事後報告のみなので賛同も決議・承認もなし。

【高橋理事】前項と同様に、理事全員から異論無く賛同を得たという事実から、決議を経て承認された事と同等と言えるでしょう。

本文書 5 頁に、「Radio JARL. com のラジオ番組につきましても、開始するにあたり、事前の理事会で計画をご説明させていただき理事全員に賛同をいただき開始しました。」とあります。同番組は、2019 年 1 月から開始されました。

<p>8. 「Radio JARL. com のラジオ番組」の開始について、理事会での「事前の」報告・提案はなされたのでしょうか。ここで、「事前の」とは、理事会で異論が出れば番組を中止できる程度に事前の報告・提案を意味します。</p>	<p>はい <input type="checkbox"/> 0名 いいえ <input type="checkbox"/> 7名</p>
---	--

【吉沼理事】 任期中には、提案はなかつた、報告は、有ったかもしれない。

【種村理事】

第 43 回理事会の協議事項で広報大使の経緯等の説明を求めたが、特段の説明はなかつた。賛同ではなく、追認止む無しで既成事実を告げられた。

【安孫子理事】

事前の報告や審議は無かつた。会員への発表を持って我々も知るようになった。

【田中理事】 広報大使の時と全く同じ。

【高橋理事】

事前であつたか事後であつたか、これは記憶にありません。
 しかし事前に承認を経なくても この件は執行部の業務執行権の範疇に入るのではないのでしょうか？
 後項の 9・10 項にも関連しますが、広報大使の任命（無報酬）ラジオ番組の開始（無報酬）を共に報告の後、報酬の支払いが発生しないかの質問はあつたものの、中止という意見は発生せず、全て追認されたのであり、承認されたと解釈しています。

<p>9. 「Radio JARL. com のラジオ番組」の開始について、「理事全員に賛同をいただき」とありますが、「全員」の賛同があつたことは確認されているのでしょうか。</p>	<p>はい <input type="checkbox"/> 1名 いいえ <input type="checkbox"/> 7名</p>
---	--

【吉沼理事】 任期中では、賛同はない。

10. また、理事会としての「決議」「承認」はなされたのでしょうか。	はい 1名	いいえ 7名
------------------------------------	---	--

【前川理事】事後報告を承認と言われると。

本文書 6 頁に、「QSL ビューローに対しては、これら長年の貢献に対して、表彰規程に基づき感謝の意を表明したもので、規定に従い業務執行として行った表彰であります。」とあります。ところで、JARL 表彰規程第 3 条は、「表彰は、理事会が必要と認めたときに行う。」と規定しており、同第 4 条に定める理事、地方本部長及び支部長の推薦に基づき、第 5 条に基づく理事会への付議・審査を経て行われるのが原則としています。

11. QSL ビューローに対する表彰について、理事、地方本部長または支部長の推薦はあったのでしょうか。	はい 0名 いいえ 6名 未確認 1名
--	---

【田中理事】

理事ではなかったので答える立場にない。(前任の宮本本部長に確認を取りましたが推薦・付議・審査は、無かったとの事です。)

12. QSL ビューローに対する表彰について、理事会への事前の付議・審査はなされたのでしょうか。	はい 0名 いいえ 6名 未確認 1名
---	---

【田中理事】

理事ではなかったので答える立場にない。(上記と同じ)

なお、JARL 表彰規程第 6 条は、会長は、一定の場合に限り、必要と認めたときは、理事会への事前の付議・審査なしに表彰を行うことができると定めていますが、その場合は、直近の理事会にその旨報告するものとする規定しています。

13. 上記表彰規程第 6 条は、理事会への事前の付議・審査を経る時間がないごく例外的な場合にのみ発動されるべきと考えますが、QSL ビューローに対する表彰は、そのような事案に当たるとお考えでしょうか。	はい 1名 いいえ 7名
---	----------------------------

【田中理事】 十分時間の余裕があるので当たらない

14. QSL ビューローに対する表彰は、直近の理事会に報告されたのでしょうか。

はい 1名 いいえ 6名
記憶に無し 1名

【田中理事】 理事ではなかったので答える立場にない。ただし前任の宮本本部長に確認すると報告は無かったとの事です。

【高橋理事】 記憶には無く、若しかしたら報告されているかも知れませんが、例え報告から漏れていたとしても会長と専務理事の解任に当たるほどの瑕疵に該当しないと思います。

本文書 8 頁には、「JARL 組織が実施する事業・予算・決算について、会員皆様のためにはどれが一番ふさわしいのか、また会員皆様のためになるのかを理事会の席上のみならず常日頃から慎重に考え検討し、各方面にご意見を伺いながら実施いたしております。」とあります。

15. 会長及び専務理事は、「JARL 組織が実施する事業・予算・決算について、会員皆様のためにはどれが一番ふさわしいのか、また会員皆様のためになるのかを・・・慎重に考え検討し」ていると思われませんか。

はい **1名** いいえ **7名**

【吉沼理事】

いいえ。しかし、中身を見ることができないため、追及するのが難しいと判断した、

【高橋理事】

現執行部はいかなる時も事業、経費についての質問・意見を拒まず回答しました。ただし それを受け入れられるかどうかは別でしたが当代の会長となつてからの新特典（新入会・長期会員への報奨や色門標復活等）や商品（動産保険等）の発表と実施にそれが現われていると解釈しています。

本文書 8 頁には、「また、理事会運営につきましても、理事会は自由に発言できる場です。理事からの問いかけに、この場では発言したくないと発言を拒否した理事がありましたが、議長として、ご意見や発言を制して一方的に閉会するようなことは一度たりともございません。」

16. 実際に、「理事会は自由に発言できる場」として運用されているのでしょうか。会長が、「議長として、ご意見や発言を制して一方的に閉会するようなことは一度たりともございません。」というのは事実ですか。

はい **0名** いいえ **8名**

【吉沼理事】

全くの嘘、参加理事全員が知っているはず、議長でありながら気に入らない発言はさせず、議題にもしない、現に提案された議案を議事録にも残していない。総務などの発言の中には、明らかに強要されたのか嘘やごまかしと思われる発言が見られた。

【木村理事】

私が重要であると認識する事案はほとんど「聞き置く、修正の必要はない」でした。

【種村理事】

・ 第 42 回理事会において、吉沼理事の議案書が事前に配布された議案書に掲載されず、理事者側の指摘により当日議案配布された。
・ 第 43 回理事会において、吉沼理事、網島理事及び種村の提出議案に対し、「理事会で取り上げるべき事案ではない」との理由で議長の一方的な一部回答があっただけで、議案に対する意見聴取や一言の発言の機会もなく閉会した。勿論、理事会報告などにも一切触れられていない。
会員の皆様にとっても重要な事項であったと理解しているので、種村の提出議案内容をぜひご一読頂きたい。

【安孫子理事】

ある程度の発言は出来るものの、これまでに会長から出された議案に対して修正案が通ったことも無く、「変えるつもりは一切無い」と発言したこともあった。

【田中理事】

理事会は、会長（議長）の独演場で気に入らない意見については、発言途中で会長が議長として割って入り発言を阻止したり議長に許可されていない発言で理事が発言した場合、ある理事については発言を容認して発言させるがある理事についてはすぐに阻止する。この場合、会長提案の議案について反対意見は阻止、賛成意見は容認と明白。

第 43 回理事会においては、理事の議案書そのものについて報告はしたが審議途

中で「理事会の審議にふさわしくない」との理由で閉会したことがあった。

私を知りうる理事会とほど遠いもので理事会の体をなしていない。

指摘をしても「昔からこれが JARL の理事会だ」と開き直られる。

【綱島理事】

最近の例を挙げれば、第 4 2 回理事会（平成 3 0 年 1 1 月 1 7 ~ 1 8 日）において、吉沼理事が提出した議案書が理事会議案書に入っていない事から、吉沼理事が理事会メーリングリストで指摘し、専務理事から「担当者が失念していた。」と言う理由で協議事項提案をなかったことにしようとした例。

第 4 3 回理事会（平成 3 1 年 2 月 2 3 日 ~ 2 4 日）において、吉沼理事、種村理事、綱島から提出された協議事項提案に対し、議案書には綴じ込まれていたが通常であれば本人達に趣旨説明をさせるべき所、それをさせず、「理事会で取り上げるような事項ではない、ふさわしくない。」という理由で、会長が一方的にその協議事項について回答（回答になっていないものがほとんど。）し、打ち切ろうとした。我々、提案者が発言をしようすると、まさに血相を変えてそれ

を遮るなど、とても自由な発言の場とは認められなかった例。

その後の理事会においても、会長を支持する理事には優先的に発言を許すが、そうでない理事は手を挙げて無視されることが多い。たまりかねた理事が発言すると、勝手に発言するなと言わんばかりに制止される場面が、度々、見られた。

【前川理事】

理事会が予定時刻より早く終了している。

【高橋理事】

会長と反目する理事に於いては発言を「制せられた」と感じたのかもしれない

んが、会長は理事会議長でもあり、各々が諸案件や意見に対し、自由気ままに、または即時に自己の意見を発言し、少々議場が混乱する場面が生じた場合、議長は会議整理のため発言者を指名し、不規則発言を制御する場面が今年の社員総会後の理事会から大幅に増えましたが、これを指して「一方的に」という指摘には当たらないと思います。
また令和元年度予算案の審議時でも質問・要望・反論が絶えるまで審議・採決されました。

本文書の1頁には、今回の社員提案について「対外的にも多大な迷惑を及ぼし、これまで構築してきた多くの信頼関係をも壊す極めて乱暴な措置であります。」とあります。

17. 現会長及び専務理事は、アマチュア無線に
関係する諸団体からどのように評価されてい
るのでしょうか。

8名の理事全員から回答あり

【吉沼理事】

その場、その場での発言資料は、総務かどこかで用意したものを読んでいる感じで、場をよんでおらず、ズレている場合が多く諸団体からも評価はよくない。

【木村理事】

具体的には言えませんが、他団体の心証は良くないと聞いています。

【種村理事】

発信源は明らかにできないが、「JARL は関連団体等との連携強化をはかる」とあるが有名無実の様だとの複数の意見をお聞きしている。

【安孫子理事】

他団体からは正式な評価は聞いていないが、個人的な感想としてあまり仕事をしながらない専務だといわれていたのを聞いたことがある。

【田中理事】

具体的に誰とは言えないが、諸団体の関係者からすばらしいと評価された事は聞かない。どちらかといえば、その反対に近い意見を聞くことがある。

【網島理事】

私の聞いている評価は、あくまで風評・噂話の範疇であり、ここでの発言は控えさせて頂きたい。

【前川理事】

そうは思わないが、相手先のこともあるので具体的に示しかねる。

【高橋理事】

ここでいう諸団体というのがどのような組織やグループを指しているのか不明なので答えに窮するが、県支部やクラブ単位からは高評価です。

諸団体として総務省・総合通信局・自治体を指している場合、その諸団体から当JARLの会長・専務理事に対して「軽々しく」評価やそれを外部に伝達及び漏洩させることは皆無では無いでしょうか。またJ A I Aを始め、業界団体等を指している場合でも同様だと思います。

この設問は諸団体に対しても失礼であり、不適切な設問です。
速やかに削除し第17項を欠項とすべきではないでしょうか？

本文書の1頁には、「第2号議案の社員提案に対して断固反対いたします。」とあります。

18. 理事におかれまして、今回の社員提案に対し反対されますか。賛成されますか。それとも社員総会の判断に委ねられますか。

反対する **0名**
賛成する **3名**
社員総会の判断に委ねる
5名

【高橋理事】

本議案が理事会での採決ならば反対しますが、法令に従い総会に提出されている以上、社員総会での決議に従うのが筋道です。

19. その他、今回の社員総会にあたり、社員及びJARL会員にお伝えになりたいことがあれば、ご記載下さい。

各理事の回答書をご参照下さい。

19. その他、今回の社員総会にあたり、社員及びJARL会員にお伝えになりたいことがあれば、ご記載下さい。

(ご回答)

私としては長い理事活動の中で、現体制の議事運営は過去に例を見ない内容だと思います。

会員減少が続くからと3年計画で行った会員増強企画の検証も疎かのままに、次の3年間も続けて入会キャンペーン行いますが、会員が退会していく理由の検証やその防止策はほとんど検証されていないと思います。

プレゼントで魅力を引くのではなくて、会員になる意義・意味、楽しみ・喜びを明確に示して魅力を感じられるJARLにしていきたいと思っています。
他組織からの信頼を取り戻したいものです。

以上、ご回答ありがとうございました。

19. その他、今回の社員総会にあたり、社員及び JARL 会員にお伝えになりたいことがあれば、ご記載下さい。

(ご回答)

・個人の解任要求に対し理事会として付帯意見を付さないとは決定されたのにも拘らず、副会長をも巻き込んで JARL としての反対意見を社員総会議案書に同封することは、まずもって公私混同も甚だしく品格に疑問を持たざるを得ない。

・財政問題は、今の JARL にとっては喫緊の課題です。あれだけ多くの赤字をいきなりゼロにすることは困難かも知れません。また、存続があと 10 年とか 20 年とかの議論は根本解決に結びつかない。それでも、赤字幅の縮小には当然努力すべきであり、支出の削減は当然としても、会員数の減少に歯止めをかける必要性を痛感している。

現在も新入会キャンペーンなどを実施しているものの、2016 年 1 月からの 2019 年 5 月までの会員減少数は 1063 名に及ぶ。これは、中途退会者が如何に多いかを如実に示しており、廃止になった永年会員表彰制度復活を始め、学校クラブや YOTA への支援強化、電子 QSL の早期実施並びにコンテストやアワードとのリンク化や QSL ビューロー制度の見直しなどの展開をすれば、中途会員の減少に寄与し赤字幅の大幅縮小に期待できると考えています。

以上、ご回答ありがとうございました。

19. その他、今回の社員総会にあたり、社員及びJARL会員にお伝えになりたいことがあれば、ご記載下さい。

(ご回答)

私個人としての意見ですが、新たな会員を獲得することも大事だとは思いますが、既存の会員の皆様を楽しくさせる事業の計画を立案しアマチュア無線全体の底上げを行わなければならないと思っている。例えば電子QSLを早急に立ち上げ、それを核とした新しいアワードやコンテストなどを立案してゆきたいと思います。また、機能を縮小した電子QSLを非会員にも利用できるようにしてJARLの有用性をPRすることにより新規会員の獲得にも貢献できるものと考えます。

以上、ご回答ありがとうございました。

その他、今回の社員総会にあたり、社員及び JARL 会員にお伝えになりたいことがあれば、ご記載下さい。

(ご回答)

現在 JARL 理事会としては、会員拡大のため現在免許を持っている人を対象として拡大事業を行っているが、大きな間違いである。それは、免許持っている対象になる方がいないからである。会員拡大の前にアマチュア無線家そのものを増やす必要がある。

そのためには、JARL 等と連携しアマチュア無線家を増やす施策を考える。

たとえば、支部や登録クラブが、JARL の講習会を行いたくなるような施策。

その後開局までの高いハードルを低くするため総務省に働きかける。

開局後のニューカマーを育てる施策を考える。

定款を変更して、入会者の窓口を広げる。

など、今後やらなければならない事柄が沢山ありますが現在の状況では、何もできませんと言うより行う気はありません。

今後の JARL を考えてください。

会長は「会員ファースト」と言いますが私から見れば「自分ファースト」です。

社員のみなさま、大きな決断を切にお願いします。

18. 理事におかれまして、今回の社員提案に対し反対されますか。賛成されますか。それとも社員総会の判断に委ねられますか。

(ご回答) 反対する

賛成する

社員総会の判断に委ねる。

19. その他、今回の社員総会にあたり、社員及びJARL 会員にお伝えになりたいことがあれば、ご記載下さい。

(ご回答)

私は、齢71歳になりますが、今までの人生において、この会長以下4名の連名で出された「社員提案に対する反対意見について」という文書ほど、嘘・詭弁そして欺瞞に満ちた文書を見たことはありません。

自らの保身のため、あることをないといい、ないことをあるという、誠にもって醜悪な文書であると言わざるを得ません。

そこには、大和男子としての矜持、潔さのかけらもなく、ただただ現在の自分の立場を守ろうとする悪あがきにしか見えません。

会長・専務理事に言いたい。

年に1～2回、ハムの集いなどで出会う地方の善良な支部長、社員、会員の皆さんに偽りの姿を信じさせることはできても、何十回となく会議や委員会で相まみえた我々理事をだますことは出来ないし、何よりも自分をだますことなど出来はしないではありませんか。

数々のスポーツ団体の騒動で見られた会長と名のつく人々の見苦しい姿をあなた方も見てきたでしょう。

あの姿を今の自分に置き換えてみて下さい。

もっと自分を大切に、もっと自分に正直になられたらいかがでしょうか？

この文書に名を連ねた副会長お二人に言いたい。

あなた方は、この文書の内容を心底信じて自分の名前を連ねたのでしょうか。我々と幾度も同じ場所において、同じ状況を見てきたあなた方が、本当にこの文書の中身を是認して、この文書の発簡を許したのであれば、失礼ながら、あなた方の副会長という職務に関する見識を疑わざるを得ません。

副会長は、会長を補佐する立場ではあるけれども、会長が誤ったことをしようとしたら、それを正しい方向に持って行くのも副会長の役割ではないでしょうか。

なぜ、その勇気を持てなかったのか、残念でなりません。

最後に、全国の会員の皆様にお伝えしたいと思います。

今、日本アマチュア無線連盟には、創立90周年以上の歴史の中で初めてと言っていい事態が起こっています。

現執行部の連盟運営を正そうという大きなうねりです。

地方にお住まいの方々には、こうした状況は身近には感じられないかも知れません。ですが、これは事実です。

普通、誰も相手方に嫌われてまで、こうした行動をとろうとはしません。

それでも、多くの社員さんが声を上げられたのは、今のJARLが切羽詰まった状況であるという危機的認識によるものです。

私は良識派理事（と呼称しております。）の一人として、今回、声を上げられた社員の皆様の志に同意し、皆様の生涯の趣味であるアマチュア無線の利益を守る有力な団体であるJARLを守り、維持・発展させていくため、奮励努力しております。

JARLは、一部の人のものではなくすべての会員、皆様のものです。

どうか、我々にお力を与えて下さい。

必ずや、同志の皆さんと力を合わせて財政を立て直し、情報を開示し、血の通った、開かれたJARLに生まれ変わらせます。

今回、社員提案に参加された、社員の皆さんの心中ご賢察の上、多大なる御支援を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。

理事・中国地方本部長 JA4DLF 綱島 俊昭

以上、ご回答ありがとうございました。

19. その他、今回の社員総会にあたり、社員及びJARL会員にお伝えになりたいことがあれば、ご記載下さい。

(ご回答)

本職としては社員そして連盟会員にも、第1号議案並びに社員提案である第2号議案について、より慎重な検討と判断を求めます。

第1号議案である決算案につき、各地方本部会計幹事と監査・連盟監事・外部の監査法人の検査・承認を受けた上での総会報告です。

詳細内容・帳尻とも異常は発見出来なかったという意味ですが、現時点では異常の証拠は提示されていませんので承認するのが自然な形でしょうし、これに異を唱えるならば証拠と関係機関への相当の覚悟が必要となるでしょう。

第2号議案での指摘は、反論を記した書類によって執行部の職務執行への説明は十分に為されています。

これを理由に総会で執行部を解任しても専務は審議役という高位職に復する他、原則的に新専務理事就任に伴う報酬他も更に発生し、臨時の理事会・社員総会の開催を年度途中に設定する事は、これも新たな費用の発生となるのは明白で、それこそ補正予算を組んでまで連盟の貴重な金銭的資源を流失させるのは得策ではありません。

そこに加えて新会長に掛かる費用も考慮しなければなりません。(免許状を始め、各種の名義変更は多いのです)

そして執行部の職務執行に対し連盟監事からは些細なことに対しても異議や指摘はありませんでした。まして解任に相当する状況があったならば当然 職権を持って監査し理事会及び社員総会へ報告が有るはずです。

その監事2名から「会長及び専務はその職務に不適當」という報告が無い以上、解任を採決する事さえ不適切ではないでしょうか。

一連の行動は総務省を始め官庁・各種団体からも注視されていると推定されますから、総会で扱う議案にも慎重を求められます。

社員のみなさんに於かれてはJARLの将来に関わる重要な局面ですので、慎重な言動・行動をお願いいたします。

第42回 理事会 議案書 JA1NVF 吉沼 勝美

1、 理事選挙の手法見直しについて

現在の理事選挙では会員に選挙用紙のみ郵送され、一般会員はJARL指定の選挙公報を見ることが出来ず、Webを見るようになっていきます、インターネット環境を持たない会員などは理事候補が訴えている公報内容を見ることが容易でなく、欲しい場合は返信切手を貼ったSASEで要求するなどとなっており、不親切で不合理な方法になっていて評判も悪い。せめて選挙用紙と同封で各理事の選挙公報を入れてはどうか。

また、社員についても同様に、各地区に準じた選挙公報を同封すべきと考えます。

審議願いたい。

2、 理事会報告内容について、

理事会報告を見ると、重要で結論が必要な項目でも言い訳ばかりで結論が無い、また持ち越し内容も後での報告もない。

報告内容を見ると、明らかに知識や技術力がなく、まとまりがない。また、知識や経験が無いために協議したにも関わらず、

記載から外して有ったりする。たとえば、1アマ免許や1kwの局免許の内容の審議をしている理事が2アマ以下で1kwの免許も有せず、経験や苦勞を知らず審議するなど、審議する能力を検討する必要があるのではないか。また、報告書の作成を総務に任せている場合も、同様にその有用性や理解能力からか内容がおかしい場合があり、議事録の最終責任者は会長なので、わからない場合など知識ある方や理事に相談するなどしてまともな議事録を作成する必要がある。

審議願いたい。

3、海外派遣者の報告について、

ARDF、ARRLや、IARU会議、その他に理事会で決定された海外派遣者には、JARL経費で派遣されるわけであり、会議出席の場合を含め、出張報告など、きちっと提出させるべきだと考えます。また、これ等の報告書をせめて理事だけでも見られる様にするべきです。

今後の派遣者選定にも役立つものと考えます。

審議願いたい。

4、 会長経費の説明要求

J A R L 会長は、理事の中から選ばれたものでも、特別な権限を持っている様ですが、実際、どのような経費が使われているのか、知りたい。

具体的に； 各地方での講演料及び会長代理での講演料、出張経費の範囲、会長依頼での依頼者への出張経費の範囲、通信費の範囲（ハガキなどの物納も含む）、など会長経費として特別に支払われるものも明確な範囲および権限の範囲。

説明要求

5、 J A R L の今後のビジョン

会員が大幅に減少した現在、今後の資金計画や、会員サポートなどをどの様にするのか、大改革のビジョンを作って進めない、このままでは、赤字財政が続き、最終的な局面が近づいている様に感じるのは、J A R L 会員も同じでしょう。

例えば、2 x 2 コールサインの取得などでも日本のコールサインのすべての2 x 2 コールサインを見ると196040も有ります。J A 1 ~ 0 の2 x 2 は、永久保全にしても19万ちかいコールサインが使われていません。これを日本式バニティー

コールサインにし有効利用すれば大きな資金源にもなります。
また、2 x 2のコールサインはコンテストにも有利で魅力ある
ものです(他にも2 x 1コールサインも、日本には、7540
も有ります)。

またARRLの様にもっとボランティアHAMを活用する運
営にしてはどうでしょうか。L o TWやOQRSの発達した現
在、ビューロー経由のQSLカードは少なくなっています。
ボランティアHAMや地域本部への補助を増やし、地方本部を
活用する配布方法も考えてはどうでしょうか？

JARLの将来のビジョンを具体的に審議すべきと考えます。
審議をお願いします。

第43回JARL理事会議案書

議題 1、 理事選挙についての全般的な見直しと改善再提案

前理事会において提案しましたが、納得いかない報告内容だったので再提案します。選挙用紙と選挙公報の同封について、82円で25g通常のA4用紙が、5枚入ります、選挙公報も十分同封できる範囲です。もしA4で5枚の範囲で不十分でも、封書92円の場合は50g アメリカの\$札が40枚入るほどです。用紙でさえキャノンのリースコピー機では1枚1円です。選挙公報を見ことのできない人もいる状況で選挙用紙のみ郵送されることは、一般的常識範囲から言っても、外れており500万円の経費損失は、過大解釈と判断されますし、理事選挙に不可解な点が無い様に改定すべき点と考えます。

また、ここ数回の選挙公報を見てください。

2018年

https://www.jarl.org/Japanese/2_Joho/2-3_Kokuchi/2018/riji_zenkoku.pdf

2016年

https://www.jarl.org/Japanese/2_Joho/2-3_Kokuchi/2016/riji_zenkoku.pdf

2014年

https://www.jarl.org/Japanese/2_Joho/2-3_Kokuchi/2014/riji_zenkoku.pdf

JG1KTC 高尾氏が必ず全国理事候補として最初に出ています、どの様な方法を取ればこの様に選挙広報の最初に連続で載せられるのか、不自然でなりません。この様なことが出来ることは、JARLの選挙方法に問題が有り、会員からも疑いの目が向けられています。選挙で使われている葉書の疑似内容や資金の出所にも規制を加えるべきだと思います。その他も色々有りますが、選挙方法について、おかしなところが無くなる様に全理事で真剣に見直してはどうでしょうか。理事選挙の選挙について、諸問題を抽出し審議し全般的に改善できるところは、改善すべきと提案いたします。

議題 2、 理事のスキルアップなど勉強会の提案

現状のJARL理事の知識や能力をアップしないと会員の訴える問題や、解決方法が理解できず、審議が進まず、判断に誤りが生じます。

まず、JARLの将来のビジョンの1つに、日本版パニティーの提案をしましたが、前理事会の報告を見ると、会議の事実とは違い、検討するでもなく、不可能と説明され、拒否した報告となっていますが、はたして審議の中で、その様な結論になっていたのでしょうか。

パニティーの事がわかってないから、こんな報告になるのだと推測できます。

現に日本式のバンティアーはすでにやっています、それはクラブ局の記念局が、それで、2 x 1、2 x 2も2 x 3も2 x 4でも、ほぼ自由に認められています。2 x 2だけが、バンティアーではないのです、JARLの記念局以外でも私が副会長をやっていた、YRPクラブ局など8N110YRPなど直接総務省に申請して免許が取れています（JARL経由の申請でなく）。これを個人の記念局に広げられるようにする事は、一番可能性のある日本版バンティアーとなりうるのでは、ないでしょうか？ これは、あくまでもJARLの将来へのビジョンの一つにすぎません、この様な、バンティアーやスプリアスの問題、CIPRIS、EM、周波数取得、周波数共有など、知らぬ間に日本のアマチュア無線界の環境が奪われ、悪化している事に気づけるように理事の知識のアップを図るために勉強会をしては、どうでしょうか。

過去の理事会において、理事の知識が低かったために、多くのものを失い、説得できず、奪われ、法律化されてしまっています。

例えば、VHF UHF帯での例として； 2.4GHz 430Mhz 同じ周波数がWi-Fiなどに使用されています。

1. 2GHz、2.4GHzの使用状況；

<https://internet.watch.impress.co.jp/static/column/yougo/2005/01/13/wp2.htm>

何度も説明しますが、不要波受信障害；海外では実施されている、不要波受信障害などや、CIPRISを含め日本では実施されておらず、免許を持った電波を出す側だけが取り締まり対象です。免許もなく不要波をガンガン出しても対象にならないソーラーパネルのインバーターノイズなど日本のアマチュア無線の方々がどうしようもないノイズに悩まされている状況なのはこれを取り締る行動や法律が有っても遂行せず、実施されてないからです。これら以外にもJARLの理事として会員を守るためには理事がこの様なことを理解できる知識や技術レベルにあることがどうしても必要です。

是非、理事として、ある程度の知識を身に付ける勉強会を提案いたします。

議題 3、経費の問題

前回の会長経費でも、総務から出張の旅費、宿泊費など実費で払っているとの総務の説明でしたが、実費とは、通常感覚では、領収書精算となります。

もし領収書でなく定額運賃で支払いを実費と言っているとすると、使う本人が低額のチケットなどを利用した場合、差額が生じ、本人の副収入となります、累計が、ある程度以上の金額になれば、確定申告の対象となります。JARLとしては、支払い側なので問題ないとは思いますが、利を得た本人がある程度以上の金額となれば、その差額を含めて、確定申告が必要となります。

これは、税務局の見解も確認しています。

もし差額が多く出て確定申告せずにて、脱税とみられれば、また知りながら見過ごしていれば理事全員の責任となりうる為、明快に説明にする必要が有ります。実費とは、領収書なのか回答いただき、もし定額支払いなら、実際の領収書との差額が出ますので、それは確定申告しているのかも含めて、説明をお願いします。また、海外出張など規定では、日当を払う事になっています。と言うことは、理事などの場合いでも雇用契約が成立している事につながるのではないかと思います。含めて説明をいただき審議願いたい。

- 議題 4、公共の場での会長、副会長の発言の内容での個人攻撃的発言の禁止について；
- 総会においては、個人攻撃などの発言は禁止しているのに、1月20日(日)の神奈川県支部の新宴会において、高尾会長が明らかに個人攻撃と取れる批判発言が有りました。その発言の内容も、昨年、の年始の会長代理としての人物の発言の事実と異なることを、証拠がテープにとつてあるとかで招待出席している場合の新年のあいさつにふさわしくない強烈な個人攻撃発言が行われました。昨年、私も出席していて、この会長代理の発言を聞いていますが、会長のメモを読んだだけで、批判する様な発言は有りませんでした。要するに事実では有りません。推薦理事の依頼についても、呼びつけ依頼し、理事に立候補しない様に依頼したのに、すり替えたことを理事会直前まで、本人に言わず、だまし討ちの様な行為をしたこともあって、悪者に仕上げたいのでしょうか、会長のあの発言を神奈川県支部の会員や役員は、違和感を持ち会長の真意を疑いました。
- このような事が無い様に、総会でも個人攻撃禁止を指示しているのですから、会長として責任あるものは、公共の責任ある場での個人攻撃は、理事全体の品位にも関係するので、禁止すべきと思います。理事会の判断をお願いします。

「第43回理事会協議事項」

- 1 提出日 : 平成31年2月1日(金)
- 2 提出者 : 理事・中国地方本部長 JA4DLF 網島 俊昭
- 3 議題1 : 3. 5MHz帯に於けるローカルルール主張者に関する対応について

(1) 3. 5MHz帯を運用する一部の人達の主張するローカルルールの是非について

昨年11月29日、会長から発せられたメールについて、12月3日私から理事等MLにて公開したとおり、3. 5MHz帯において一部局長が主張するローカルルールが、まるで電波法やアマチュアバンドプランに優越するかのような風潮がまかり通っていることに、多くのアマチュア無線家が違和感或いは憤りを抱いていることは御承知のことと思います。

しかるに、会長のメールを見るとこのローカルルール主張者に対して、理解を示すような記述があり、到底納得できるものではありません。

つきましては、このローカルルールなるものを主張する人達に対して、これについてのJARLとしての考え方とこれら主張に対していかに対応するかを協議して頂きたいと存じます。

(2) 苦情メール発信者に対する回答について

上記協議の結果をふまえ、このメール発信者に対して、どのように回答するか示して頂きたいと思います。

(3) 会長からの再発防止策を命じる命令(指示?)の撤回について

、4エリア本部長に対する命令(指示?)の撤回を文書により、いただきたいと思ひます。

(4) この種事案に対する命令・指示について

今回は、会長自ら4エリアに対して、事情聴取も状況把握もないまま、一方的にこのような苦情メールが来たので、再発防止策を策定して提出せよということでしたがこのような場合、まず、事務局担当者から本部長等に連絡をして、状況を把握し、当該エリアだけの問題であれば、そのエリアに指示すればいいと思いますが、この種事案は他エリアにも起こり得ることであり、全本部長を対象に意見を聴取するのが妥当だと思ひます。

この点、会長は如何お考えでしょうか。御意見を賜りたいと存じます。

4 議題2 : 内部統制違反に対する考え方について

(1) ガイドラインについて

過去2回にわたり標記に関する議案が提起されましたが、法規または規則等についての説明に終始し、明確なガイドライン的なものは示されていません。また、誰がどのように違反であると判断するのか、まったくわかりません。我々理事は、理事会において、連盟の正常な運営のため役立つと思うことについて発言をし、それを会員に報告する義務を有していると理解していますが、それを内部統制違反と言われれば理事としての存在意義はありません。

是非、明確な目安となるようなガイドラインを示してもらいたいと思います。(例：事実について発言・発信することは、内部統制違反に該当しないものとする。)

(2) 内部統制違反認定の手続きについて

内部統制違反とおぼしき事案が発生した場合、その認定手続きについてはどのようにするのか、明確に規定していただきたいと思います。(例：監事の調査を経た上で理事会で審議し、理事の多数決で認定する。)

(3) 過去、当連盟では、会長の独断により、但し書き本部長を解任するという事案がありました。これは、当該本部長が、本部長の部下である監査長に調整なく総通局と監査指導業務の協同について調整したという非常に理不尽な理由で、起こったことでもあります。

このような、会長の独断で、事実関係の調査も行わず、本人に弁明の機会も与えないような暴挙がまかり通るような非民主的な組織であってはなりません。

是非、再度このような暴挙による犠牲者が出ないように、この種事案の認定には明確なガイドラインの明示と手続きを規則化していただきたく、また、この種適用による争い(訴訟等)を避けるために、規則完成まで内部統制違反を適用しないよう強く要望致します。

5 議題3 : 議事録および協議事項記録の記載基準について

(1) 11月に実施された第42回理事会の協議事項記録について、吉沼理事提出の5項目の内、2項目のみの記載としたのは如何なる理由か、明確な回答を頂きたいと思えます。

(2) このような、そのときそのときの執行部(一般理事を除く。)の一存により、記載の基準を変化させることは、組織全体の信頼度を損なうとともに、会員の組織に対する不信感を醸成し、ひいては会員の減少につながることを深く認識し、組織運営の可視化を進め、開かれた連盟への改革を推進するよう強く求めます。

6 議題4 : 管理職職員の採用及び任命について

- (1) 理事会規定第5条(審議事項)第1項(別表)に定める人事に関する事項について、会員課内山担当課長の定年退職に伴う後任人事がすでに決定していると聞いていますが、管理職職員の人事については、理事会の審議事項であるにもかかわらず、執行部の一部のメンバーにより決定したのは如何なる理由か、明確な説明をお願いいたします。
- (2) 過去にも、この種事案の発生が認められ、同様の手続きがとられていることは、組織運営上、規則を無視した重大な問題であることを認識し、理事会としての機能を損なうことのないよう強く求めます。

2019年2月8日

第43回理事会協議事項

提出者：種村 一郎 (JG2GFX)

議題1：オリンピック・パラリンピック記念局等について

東京オリンピック競技大会は2020年7月24日に開会式を、同パラリンピックは8月25日に開会式を迎えます。大会開催迄500日余りと迫り、記念局や総務省告示などの諸案件の対応期限が既にタイムリミットがとなりつつあります。既にJARL東京オリンピック記念局実行委員会が組織され、活発に活動されていると考えます。更に会長は「アマチュア無線界の活性化に係る中長期的な事業活動の一つとしては、来るべき2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、日本国内における海外アマチュア無線資格者のアマチュア局運用の条件緩和や、特別記念局の開設運用に係るコールサインの付与、資格や操作範囲の緩和などを関連機関と共に働きかけてまいります。(JARL Web 平成29年1月)」と挨拶されています。

これらを踏まえて、

1. オリンピック特別記念局開設について現状と今後のスケジュールと見通しをお聞かせください。
2. 希望する識別信号案についてお聞かせください。
3. 特別記念局の局舎等を会場内または会場外に設置し、会員や外国からの有資格者が運用できるよう要望します。
4. 運用形態、例えば、8M2000とかW1AWのように特別プリフィックス局の全エリア設置を要望します。更に、8都道県に大会会場がありますが、会場ごとの識別信号特別記念局の設置または常置場所運用を要望します。
5. ロゴマークの一般局QSLへの無料使用許可を大会組織委員会に要望してください。
6. 8J2AIや8N23WSJのような相互運用協定国以外の有資格者運用可の告知についての進捗状況をお聞かせください。
関連で、CEPT T/R61-01、海外短期訪問者の社団局の扱いを個人局並み化などを併せて要望してください。
7. 会長の仰る、「資格や捜査範囲の緩和」の内容と進捗状況をお聞かせください。
8. 一般局の特別プリフィックスの割り当てを要望します。ex. 8J10etc.

議題2：理事、理事会の在り方について

理事の職務は、「定款23条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する」とあり、理事は会社等の役員に、理事会は役員会等に相当すると考えられます。昨今の状況に鑑みて、計画目標が決定されずに場当たりのと思われる事象が散見され、理事にその決定すら報告されない。

多くの会員からの質問に回答するためにも、

1. JARL 広報大使について

総論的には賛成であるが、ターゲットや選定基準が定かでないと考えます
契約内容、費用対効果など含め、大使決定に至った経緯と活動基準をご説明願います。

2. 丹波篠山市の市番号について

メールマガジン(2月5日)によると、12月5日の官報に基づき篠山市が消滅し
丹波篠山市となり市番号が追加されました。

「都市、群及び区番号の指定基準について」の3.「都市、群及び区の名称が変更
され、かつ、境界の変更がある場合は、番号はそのままとする」とあり、本来市番号
の変更に該当しないが、前日の2月4日に何故か指定基準が変更され、「都市、群及び
区の名称が変更された場日は新番号を指定する。」とある。

この変更に至った理由と根拠をご説明願います。

3. IARU HF Championship Contest におけるログについて。

連盟本部局 8N7HQ (青森市) が 7MHz、CW で開設、運用されましたが、
ログを紛失したそうです。その事実と顛末をお聞かせ下さい。

ログソフトが壊れていて、メモリー(107)
に残っていません。

以上